

このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行（平成元年）の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

対抗リレー

文 蛭田光城
ひるたみつき

絵 野上和彦

「昔の運動会はどんなだったの？」

「おじいさんのころはね、小学校は尋常科と高等科があつたんだ。運動会には、隣村の学校からも来てくれてね、対抗リレーがあつたんだ。尋常科は、滑河、久住、長沼、八生、北辺田がお客様さ。六チームになるから、男女それぞれ予選をやつてから決勝になる。高等科は、滑河、久住、豊住の三校だからすぐ決勝なんだ。長沼は尋常科まであつたし、八生は、小学校の上の農学校をつくつたので、高等科がなかつたんだよ。この対抗リレーの時の応援はすばらしいものだったよ。集まつた何百人もが、各校毎にのどもさけんばかりに応援するんだからね。『天地を響動もす』つて古い言葉があるけど、こういうことを言うんだらうと、子供心に思つていたよ。」

「お客様で来てもらうと、こつちからも行くの？」

「ときには久住と八生というように、二校同じ日というのもあつてね、だから男女それぞれA・B二チーム作つていたわけさ。」

「隣村の学校へは、どうやって行つたの？」

「ハハハ、成男も持つている便利な道具があるじゃないか。」

「えッ、何よ？」

「二本の足だよ。おじいさんのころは、どこへ行くにもみんな歩きだったんだよ。おじいさんが聞いたはなしでは、むかしは、成田から茨城の竜ヶ崎まで歩いて、野球の試合をしに行ったこともあつたんだそうさ。もちろん、相手も歩いて来たんだよ。テクテク歩くので、テクシーなんて言つたりしたんだって。」

「どこの学校が一番おもしろかつたの？」

「みんなそれぞれいいところを持つていたね。長沼では青年団が、運動場の片隅に演奏台を作つてね。歌や民謡を運動の種目に応じて演奏していったんだ。本当に楽しいものだったよ。」



編集後記

今年もたくさんの人でにぎわつた「成田ふるさとまつり2008」。黄色いTシャツを着た自治会関係者やボランティアのスタッフがイベントを裏から支えています。昨今、隣近所の関係が希薄となり、住んでいる人の顔も分からないことも…。イベントを通じてコミュニケーションが図れば、新たな出会いが始まるかも知れません。



成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成20年9月15日号 No.1131 成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>